2016 年 3 月 1 日（改定）
総　務　省　統　計　局

労働力調査の結果を見る際のポイント　No.7

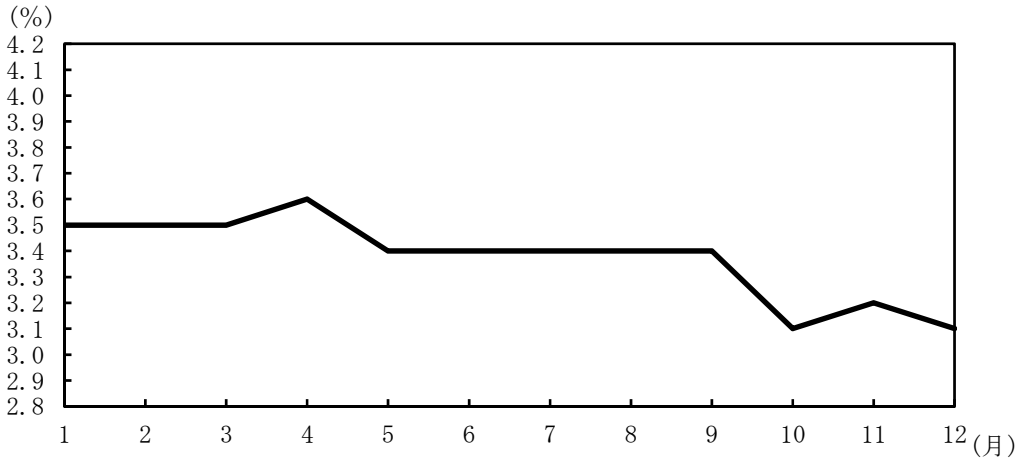
季節調整値の改定

～季節調整値は毎年１月分結果公表時に，過去に遡って改定～

季節調整値を過去に遡って改定しましたので，その概要を説明します※1。

○　労働力調査のような月次統計の原数値には季節変動が含まれます。例えば，図１に示すように，毎年３月から４月にかけて，定年や雇用契約の満了による離職者，学卒未就職者などが一時的に完全失業者となることがあるため，完全失業率が高くなる傾向にあります。

図１　完全失業率の原数値の動き（2015 年）



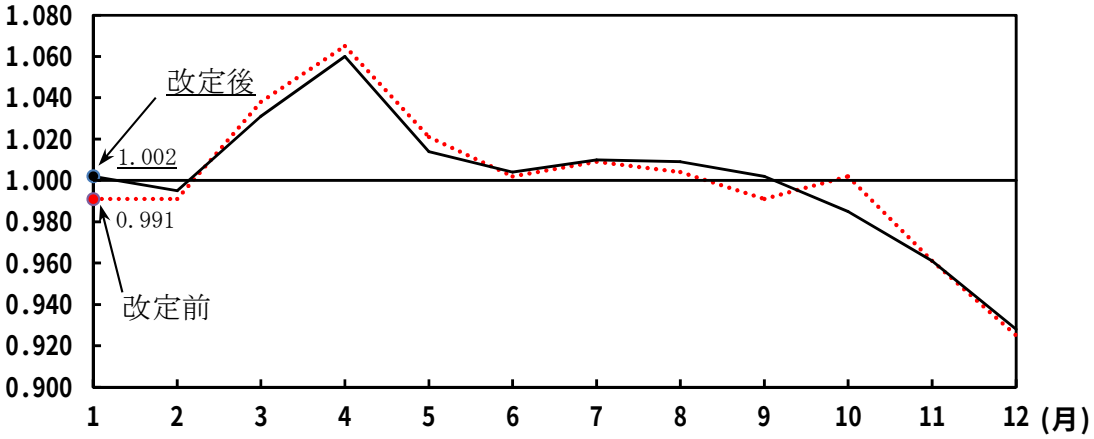
○　足元の動き，すなわち前月からの変化を適切にとらえるためには，こうした季節変動の影響を除く必要があります。そこで，完全失業率のほか，就業者数などの主な集計項目について，原数値から季節変動を除いた「季節調整値」を求めて，公表しています。

○　季節調整値を算出する際には季節指数（季節変動を表す指数）を推計する必要がありますが，季節変動のパターンは，毎年少しずつ変化しています。そこで，直近の季節変動パターンを結果数値に的確に反映させるため，労働力調査では，毎年１月分結果公表時に，過去の時系列データに前年 12 か月分の結果を追加して，過去に遡って計算し，過去 10 年分の数値を改定しています※2。

※1　「労働力調査の結果を見る際のポイント No.4（原数値と季節調整値）」も併せて御参照ください。
※2　改定後の季節調整値は，長期時系列データ に掲載。

○　2015 年 12 月までのデータを加えた今回の改定についてみると，2015 年の季節指数は，図２に示すように，改定前と改定後で変化していることが分かります。

図２　改定前後の季節指数（完全失業率，2015 年）



この結果に基づいて 2015 年１月の完全失業率の季節調整値を求めてみると，次のようになります。

$$（改定前）\underbrace{\frac{231（完全失業者数）}{6540（労働力人口）}\times 100}_{完全失業率（原数値）}\div \mathbf{0.991}（季節指数）\ \fallingdotseq\ \mathbf{3.6}\%$$

$$（改定後）\frac{231（完全失業者数）}{6540（労働力人口）}\times 100\div \mathbf{1.002}（季節指数）\ \fallingdotseq\ \mathbf{3.5}\%$$

○　下表は，完全失業率について，今回の改定状況を示すものです。2015 年は，１月が－0.1 ポイントの改定，４月及び 10 月がそれぞれ＋0.1 ポイントの改定となります。

表　季節調整値の改定状況（完全失業率，2015 年）

完 全 失 業 率（季 節 調 整 値）　　男女計

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
改定前(%)	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.4	3.4	3.1	3.3	3.3
改定後(%)	**3.5**	**3.5**	**3.4**	**3.4**	**3.3**	**3.4**	**3.3**	**3.4**	**3.4**	**3.2**	**3.3**	**3.3**
差(ポイント)	-0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0

網掛けは，改定前後の値に差がある箇所。